

22. ^{99m}Tc -HM-PAO と ^{123}I -IMP 同時収集による負荷
脳血流シンチの試み

遠山 淳子 小山 一之 小林美砂子
南部 一郎 飯田 昭彦 水谷 弘和
大場 覚 (名古屋市大・放)

動きを伴う負荷による脳血流変化の検討が可能と考えられる ^{99m}Tc -HM-PAO と ^{123}I -IMP 同時収集による負荷脳血流シンチを試みた。

^{99m}Tc の energy window を 140 keV で width 10%,

off set -3% とし, ^{123}I の energy window を 159 keV で width 10%, off set 3% の条件は, それぞれの像への他方の RI の影響は軽微であり, SPECT 像は十分に検討に耐えうるものであった. ^{99m}Tc -HM-PAO と ^{123}I -IMP は, 血流にほぼ比例して分布するが, 両者の集積に若干の違いがある. 今回の症例では, ^{99m}Tc -HM-PAO は小脳やレンズ核, ^{123}I -IMP は視床への集積が多く, ^{99m}Tc -HM-PAO, ^{123}I -IMP 同時収集法により, 負荷による脳血流変化を評価するには, このような分布の違いを考慮する必要があると思われた.